

平成 18 年度学術ポータル担当者研修レポート

受講者番号	受講者名	所属機関
11	臼井隆弘	兵庫教育大学総務部企画課企画・評価チーム
12	永井一樹	兵庫教育大学教育研究支援部学術情報課学術情報チーム

1. 発表資料の状況設定

教授会の前に時間をもらい、機関リポジトリの概要を説明する。

2. 発表内容抄録と研修当日の講師からの助言および研修発表との改訂部分

まず、機関リポジトリの定義を示し、国内外の動向について述べたあと、本学がめざすリポジトリ像および構築スケジュールについて詳述した。最後にリポジトリ導入による意義・効果を列挙した。

講師からは、リポジトリの紹介に終始しており、教員がリポジトリに対してどう関与するかという観点が抜けているという指摘があった。

そこで、本学のリポジトリ像の説明部分を縮小し、導入メリットの項目の立て方を修正した上で、教員へのコンテンツの提供依頼および提供後の処理の流れについて解説するスライドを追加した。

3. リハプレゼンの概要

日時:平成18年10月24日(火)

場所:附属図書館会議室

状況:図書館運営委員会の後

発表者:永井一樹

発表対象:図書館運営委員(8名)

4. リハプレゼンの反響

スライドは18コマ、プレゼンに要した時間は約15分であった。複数の委員から、コンパクトにまとまっていてわかりやすかったという評価を得た。他に、「研究者の負担がないことをアピールするために、コンテンツ提供を依頼するスライドは不可欠」、「ダウンロード統計を通知する機能など、付加価値的なサービスも宣伝していくと効果があるだろう」といった意見があった。

5. 今後の展望

今後は大学の情報戦略に関わる諸会議の場で、同内容のプレゼンを行う予定である。また、協力が得られそうな教員から個別に営業活動をすすめていくことも検討しているが、その際は、論文提供依頼や著作権処理等に重点をおいた内容に同資料を修正する予定である。